

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
相談援助実習指導 I Guidance in Fieldwork of Social Welfare I		1年	前期	別途、時間割表参照
単位数	授業の形態		授業の性格	
1単位	演習		選択 (社会福祉士国家試験受験資格取得必修)	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大熊 信成	福祉棟3F	火～金9:00～17:00 (授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
相談援助実習の意義や目的を理解した上で、実習前に学ばなければならない内容を整理する。さまざまな施設や機関の現状を学習し、さらに社会人としての常識(身だしなみ・マナー)を身につけ、夏期休業中の見学・体験学習へと結びつける。				
授業の到達目標				
①実際に実習を行う実習分野(利用者理解)と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解を深めることができるようにする。 ②実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解(個人情報保護の理解を含む)をできるようにする。 ③社会人としての常識・権利・義務について理解することができるようにする。 ④現場体験学習の実施をできるようにする。				
授業の方法				
講義および演習。課題作成等。				
学習の成果				
①実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会について体系的に理解することができる。 ②社会福祉援助職として利用者及び関係者の個人のプライバシーの保護と秘密を保持を順守できる。 ③社会人としてのふるまいを身につけることができる。 ④現場体験学習の目的の理解と計画を作成することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(シラバスを用いて、授業の目標や方法について説明。成績評価方法について説明)			
第2回目	相談援助実習の目的とその実際、資格取得の意義			
第3回目	相談援助実習施設の種類の契約施設・機関			
第4回目	実習施設の領域①(高齢者領域・児童領域)			
第5回目	実習施設の領域②(障害領域・医療領域)			
第6回目	実習施設の領域③(地域領域)			

第7回目	社会人としての常識(みだしなみ、マナー、電話のかけ方)		
第8回目	専門性と職業倫理		
第9回目	プライバシーの保護と守秘義務の理解		
第10回目	相談援助と関連職種、業務に関する理解		
第11回目	実習先で必要とされる知識・技術(履修科目との関連について)		
第12回目	現場体験学習の計画①(心構え、マナー、見学実習先の概要)		
第13回目	現場体験学習の計画②(実際の介護サービスの理解、計画)		
第14回目	現場体験学習実施ガイダンス		
第15回目	実習記録のまとめ方、夏休みの過ごし方		
成績評価の方法と基準			
評価の領域		割合	評価の基準
授業参加態度	60%	授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、授業に臨むことができる。	
レポート	30%	明確に理論と根拠に基づき、さらに共感的視点に沿ったレポートを評価する。	
調査報告書			
小テスト			
中間・学期末試験			
発表内容(態度含む)	10%	資料を作成し、発表を行う。聞き取りやすく明確な根拠に基づき発表を行うことができているかを評価する。	
その他			
教科書と参考図書			
教科書: ミネルヴァ社会福祉士養成テキストブック「相談援助実習」川廷宗之他、その他授業において適宜紹介する。			
履修上の心得・ルール			
実習に関する諸連絡があるため授業は必ず出席すること。欠席した場合は、内容をクラスメイトに確認し、書類や課題は次回授業までに担当教員まで取りに来ること。他の学生の課題発表は積極的に聞くこと。私語、遅刻、早退は厳禁。			